

2017年6月23日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

CBP501作用メカニズムに関する論文のOncotarget誌への掲載について

米国の有力な論文誌Oncotarget^{※1} オンライン版に、当社が開発中の抗癌剤候補化合物CBP501の作用メカニズムに関する論文が掲載されましたので、お知らせいたします。

“CBP501 inhibits EGF-dependent cell migration, invasion and epithelial-to-mesenchymal transition of non-small cell lung cancer cells by blocking KRas to Calmodulin binding”

《抄録》 全文(PDF・HTML)へのリンクもこのページに掲載されています。

<http://www.impactjournals.com/oncotarget/index.php?journal=oncotarget&page=article&op=view&path%5b%5d=18598>

この論文では、CBP501が肺癌細胞の遊走・浸潤・上皮間葉移行を広く阻害すること、そして特に上皮成長因子(EGF)が誘導する遊走・浸潤・上皮間葉移行阻の阻害については、癌原遺伝子KRasとカルモジュリンの結合をCBP501が阻害することによって起きていることを示しました。

これにより、CBP501は、既に明らかになっていた作用メカニズムである細胞周期G2チェックポイント阻害によるDNA損傷修復抑制作用、カルモジュリン阻害によるプラチナ細胞内濃度上昇を通じたDNA損傷増加作用に加えて、同じカルモジュリン阻害によって癌細胞の遊走・浸潤・上皮間葉移行を阻害する作用を持つことが示されました。

当社代表取締役社長河邊拓己は、次のとおりコメントしています。

「今回掲載された論文の内容は、主に肺癌の臨床第2相試験で見られた患者部分集団への顕著な延命効果の根拠を探る中で発見された、CBP501の3つの追加的作用メカニズムのひとつです。

単一シグナルを押さえるタイプの分子標的薬とは異なり、同じ現象を起こす複数のシグナルを同時に押さえるというCBP501の魅力も示しています。

この作用を示す実験結果が有力な査読論文誌に掲載されたことは、現在準備中のフェーズ1b臨床試験の基礎となっている我々の樹立した作業仮説の確からしさを高め、CBP501の抗癌剤としての有望さを改めて客観的に示したと考えています。

当社は今後も、一日も早く有効な新規抗癌剤をお届けできるよう、役職員一丸となって開発に邁進してまいります」

なお、CBP501は現在、免疫チェックポイント阻害抗体ニボルマブ(商品名:オプジーボ)とシスプラチンとの3剤併用による臨床試験(フェーズ1b試験)の開始準備の段階にあります。

《関連適時開示》

2017年4月10日公表「CBP501臨床試験(フェーズ1b試験)開始承認取得について」

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1457047>

《準備中のフェーズ1b試験の内容》

ClinicalTrials.gov

“CBP501, Cisplatin and Nivolumab in Advanced Refractory Tumors”

<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT03113188>

以上

※1 Oncotarget誌は、Impact Journal社が2010年に創刊した、癌の分子標的治療領域で高い評価を受けている査読つき医学論文誌です

<http://www.impactjournals.com/oncotarget/index.php?journal=oncotarget>

当社の抗癌剤候補化合物CBP501は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業の結果得られた「堅牢な合成方法」を活用して製造しています。